



ナンシー・リー
from ウスイホン

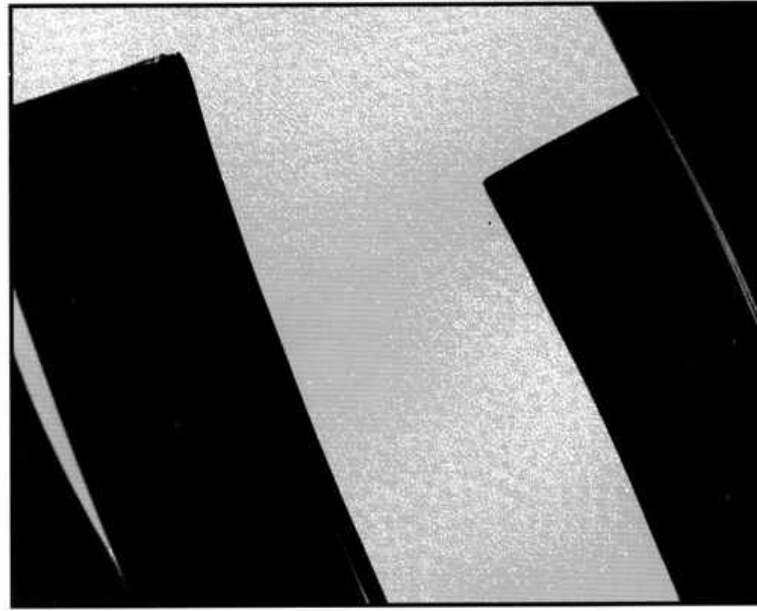
for adult only



yumemi &
kakugari ani
present's



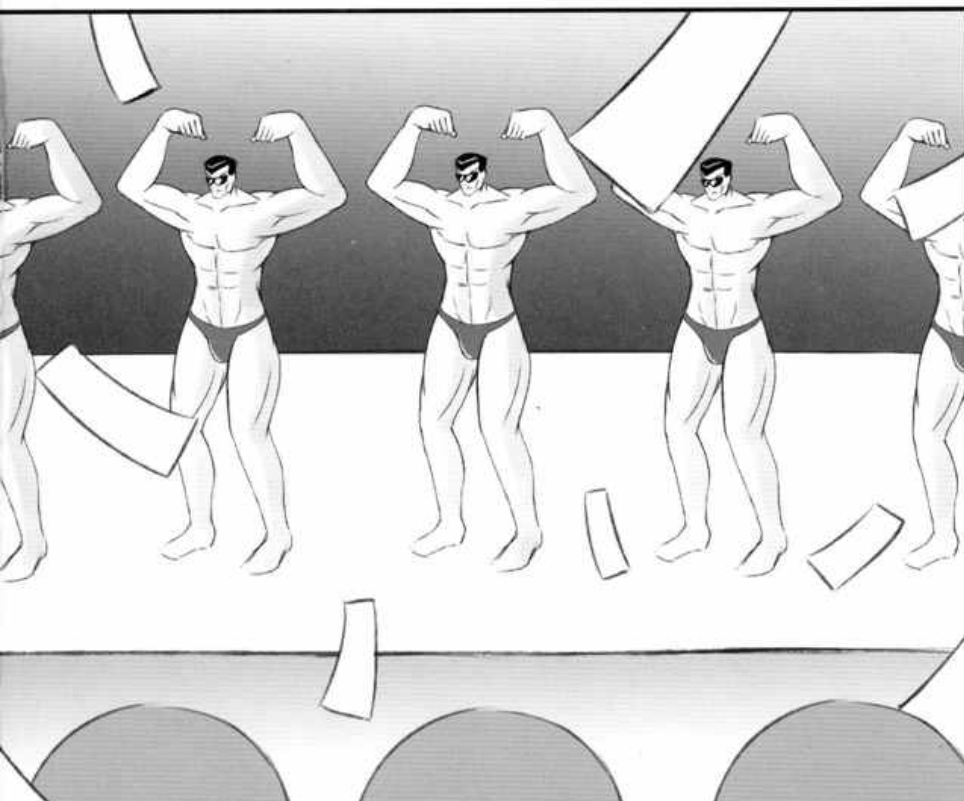
繁華街ネオカブキチヨ。そのニチヨーム・ストリートにあるバー『イケメンパラダイス』。週末そこには、大手大企業重役の妻、ザイバツ御曹司のアイジンなど、富裕層の中年女性が数多く集う。



キンギンパールに身を包み、夜の歓楽街にその身と余りあるカネを投じる彼女達は別名『キンツマ』と呼ばれる。今宵もその薄暗い店内、ポールダンスを踊るクローンダンサー達の頭上には『キンツマ』達の撒いた札束が舞う。

その店の奥にあるVIPルーム。そこでは一人のうら若きアイジンが、クローンダンショーと甘い時間を過ごしている……筈だったのだが。「やはり……この店はソウカイ・シンジケートの経営する闇店舗。顧客は皆、敵対する企業の妻達」男娼もとらず、カーテンの隙間から様子を伺う金髪の女。

「ソウカイヤは彼女達をたぶらかし、店に多額のカネを落とさせている……敵対するザイバツの資金をこんな形で奪うなんて」着飾ったドレスの変装を脱ぎ捨て、黒のレザースーツを露わにしたコーカソイドの金髪美人。



胸元から取り出した小型カメラで店内の様子を撮影するナンシー・リー。そのバストは豊満である。「しかしこのお店暑いわね……なんか頭がぼーっとして……」その頭上に、不気味な影が現れる！

「オレ様の汗には強力な淫眠作用のフェロモンが含まれててなあ！ その発汗を促すための室温設定！ そしてココはオレの王国という訳だ！ ハハハッ！ ヨウコソ、ナンシー=サン！」

そう言って、張り付いていた天井から彼女の前に降り立ったのはソウカイ・シンジゲートのクローンダンショウ。しかしその額には、量産型の3倍は強そうな角がそびえ立っている！

「お前は……！」「オレ様はこの店を仕切るエース専用タイプのクローン、suguni yoku aegaseru ace 略してシャークロ！ 悪いがネーチャン、この店のカラクリに気づいたからにはタダじゃ帰れないぜ！」

「イヤッ！」「ああッ！」ナンシーはシャードンの放ったワイヤーに、一瞬にして全身を締め上げられてしまった。「くっ……あっ……ほどけないっ」それがナンシー・リーの、長い夜のはじまりであった。





「くっ……はあッ……」

「ククッ……もがけば
もがく程、その
ワイヤーは全身に
喰い込むぜエ？
ほらそのデカイ
パイオツにも、
敏感なオマタにもなあッ」

「ノーーーーウツ！」



「んー？ 苦しいか？ ジャーナリスト、ナンシー・リーその胸のデカさは有名だが、尻の方も丸々として……随分豊満なデカケツじゃねーか」

「クッ……ドコを見てるのよっ、この変態！」

「あ？ 可愛いらしい童顔を紅潮させて何言ってやがる。そのエロい格好といい、オマエ本当はこういうの好きなんじゃないのか？ いかにも“私を捕まえて、イヤらしいお仕置きたっぷりして下さい” って感じが全身から滲み出てるぜ？」

「そっ、そんなコトあるわけッ……」

「ハハッ、丸出しのプリケツいやらしくネらせながら言う台詞じゃねえなあ……素直になれよ、オラッ！」

『バチンッ！！』

「あぁー……ッ！」

「お？ ケツ思い切り叩かれたってのに、随分甘い鳴き声あげるじゃねーかw オラッ！」



「あんッ！」

「オラッ！」

「ノーウツ！」

「オラあッ！！」

「ああああッ！」

「白いプリケツ真っ赤に腫らして、トロンとした目してんじゃねえかw

こりゃオレのフェロモンのせいだけじゃなく、根っからの癖だな？

クッ、可愛い顔して、この変態DM娘が……

オラッ！ オラッ！

オラあッ！！」

「あッ！ ノウツ！

イヤあああッ♪」



「オラこのツッ!
尻丸出しでツッ!
誘ってんだるツッ!!」

「んあツッ! ハッ!
ハッハッ!!」



「Noじゃねーだろッ！ デカケツ震わせて悦びやがってッ。ほら全身クネらせるからワイヤーがヤらしいカラダにドンドン喰い込んでってるじゃねーかw オラッ！」

「あうッ！ だってっ！ カラダが勝手にッ！ ピクンピクンってしちゃうからッ……あッ！！」
「うおッ！ ほら暴れっから豊満バストがプルンって揺れて……デカパイがポロリしちまったじゃねえかw」
「いやあッ！ 見ちゃダメっ！」
「おー、薄いピンクで10代の生娘みてーな可愛い乳首してんじゃねーかw」
「あッそんな近くで見ないでっ！ あんっ♪ 鼻息あたってっ……ああっ♪ 息吹きかけちゃダメエッッ！」
「ああん？ コレが良いのかよホラッ！ フーッ！ フーッッ！」
「おうッ♪ のおおウ♪」
「カラダびくびくしてんぞw おー！ 乳首勃ってきたじゃねーかw ホラもっと気持ち良くしてやるよッ！ フーッッ！」
「あッ♪ イヤッ♪ ああああーッ♪」

「カラダのけ反らせて悦びやがってw そんな暴れたら下の股縄もずいぶん喰い込んでんじゃねーか？ どれどれ……」
「ちょっ、そんなトコに顔近づけないでー」
「って、すっかり濡れてんじゃねーかお前！w」
「そんなっ、違っ……」

「違わねーよ、マン汁染み出てきてんじゃねーか！ ……クンクン……
くっせ！ エロい匂いさせやがってw」
「ああッ！ そんなトコの匂い嗅いだらッ……ヤあだあッ……」



「ほら、ワイヤーも服も引っぺがして、どんだけ濡れてるか確認してやるよ」
「いやっ！ あっ！ のおおおう……」

「バイオ強化されたオレ様の筋肉に、力じゃ勝てねえからおとなしく……
って、すっかり腰くだけで、歯向から気力もねーじゃねーかw ほら！
素っ裸に剥かれた気分はどうだ？」

「ああッ……うそっ……こんなカッコ……」

「ハハッ 明るいトコロでデカパイも大事なオマンコも
恥ずかしいトコ全部晒しちゃったなオイw」

「んっ……恥ずかしッ……こんな……
誰にも見せたコトっ・無いのにつ……」

「さすがガイジンっだけあって、マン毛全剃りしてんなw ピラもハミ出てなくて割れ目もキレイ……って、お前なに尻穴
ヒクつかせてんだ？w つかアナルこんもり脱肛させて……お前、尻穴イジるの好きだろw」

「えっ！？ いやっ・なんで！？」

「アタリかよw ほら、入口に指当てただけで……」

「ああッ……はあんッ♪」

「すんなり指飲み込んでくじゃねーかw 普段からイタズラして、尻穴ほぐしてっからだぞ、コレw」

「あっ・あっ・ホジったらダメッ♪……おんッ！ 指曲げてグリグリはもっとダメええッ♪」

「ダメって言いながら喘ぎ声出すなよ ゆーっくり出し入れしてやるよホラ……気持ちイイんだろコレw ほら腸液で
アナル濡れてきたぞ？ ケツ穴ニユルニユルだなw ほら引っ張ると”行かないで”って肛門吸い付いて来やがるw」

「ハアハアッ♪ はああ〜〜〜ッ……ああああんッ♪」

「ヤらしいアナルほじりながら、どピンクまんこも開いて見てやるよホラ……ん？ 真ん中で処女膜ヒクヒクいってんなw
やっぱお前バージンだったのかw」

「あっ・いやッ！ 見ないでエッ！！」

「ふはッ、イジってもいねーのにマン汁が糸引いてんじゃねーかw よし、じゃ今日は可愛いナンシー=サンの卒業式して
やるーじゃねーか……」

「えっ！？」



「あッ・うそッ……のおおーうッ……お願いだからやめてえ……」

「やめてじゃねーよ、ほーら、入口にチンポ当ててるだけで、イらしい肛門が吸い付いてくるじゃねーかw
ケツ穴ムズムズしてんだろ？ アナルホジったら気持ちイインだろオラ！」

「はあッ……でもっ・そんなおっきいの……無理っ・入らないよっ……」

「大丈夫だよホラ、当ててちよい押しただけで、肛門がチンコ飲み込んでくじゃねーかw ほらドンドンめり込むぞ？
しかし良くほぐれたアナルしてやがんなw アナニーしすぎの変態娘にお仕置きしてやるッ！」

「いやッ！ やめてお願ッ……ああッ！！」

「ほーら全部入ったッ！ オレのデカチン簡単に飲み込んだじゃねーか……おーッ・締め付け気持ちイイツ……
チンポ好きのっ・いいケツ穴だなッ！ 大丈夫、最初はゆっくりホジって……」

「いやあッ・のおおうッ……おッ♪ あッ♪ ……ハアハア……いやああんッ♪」

「だんだん激しく……引っ掻き回してやるからなッ！ ほら全身ビクビク震わせて……チンチン気持ちイインだろ？
尻の穴ホジられて気持ちイインだろうがホラッ！」

「あッ・うそッ・こんなッ……あん♪ いイツ♪ お尻のあなあッ♪ 気持ち良イツ♪」



「おら四つん這いになってケツ高く上げろ！ そ〜だホラッ！」
「ああッ・深ッ！ 深くまで刺さるうッ♪ この姿勢ッ……あん・あんッ・ヤバいいいッ♪」
「可愛い鳴き声あげやがってw 快楽に負けてすっかり素直になったじゃねーかw そうそう、もうあきらめて気持ち良くなる事だけ考えろ、な？」
「え？ あっ・あッ♪ ああああッ♪ うんッ……」
「よしよし良い子だ……おいデメェら！」
「へい！」「へい！」「へい！」
「ほーら、部下のクローン達も気持ちよくしてやってくれよ……口開けろオラッ！」
「エッ！？ イヤッ！ やだあんッ！」
「うるせーなw オメェらかまわねえからチンポ無理矢理突っ込んで、お口も犯してやれよ！」
「へい！」「へい！」「へい！」
「やっ・だッ・ムグッ・んッ・んッ……オエエエッ！」
「オイオイ吐くなよw ほらもつとツバ出してしゃぶって、横のチンコも手でシゴけ！」
「だってッ……んんッ・すごいニオイッ……」
「そいつら改良型のオレの複製だから、そのチンポの形もニオイもオレ様と同じ。つまりお前の尻穴を気持ち良くしてるチンポと同じなんだから、丁寧に扱えよ……オラッ！ オラ・オラッ！」
「はあッ！ ダメッ・こんな最中にッ・お尻叩いたらあッ・あんッ♪」
「おおッ・ケツ穴キツッ・尻叩く度ッ・キュッって・肛門締めやがってッ・この変態ッ！」
「だあッ・ッ・こんな痛ッ・ひどい扱いッ・興奮しちゃううッ♪ お尻の穴もッ・ちんちんでホジられてッ・かゆくて気持ちよくてッ・ああッ・ちんちん気持ちいいッ♪」
「肛門どんどん濡れてくるな……くっせー腸液でケツマンコにゆるにゆるして……このアナルすげえ気持ちいいぞッ！ あーあ、さっきまでシャンプーと香水のいい匂いさせてたのに、ケツ穴からくせえ臭いさせて台無しだなw」
「やだあッ・あんッ♪ そんなコト言っちゃ……いじわるうッ・あんッ♪」
「あー？ 意地悪じゃねえよ、可愛い顔した生娘の、くっせえ肛門のニオイで興奮するって、褒めてんだよおらッ！」
「いやッ・恥ずッ……でもっ・わっ・私もっ……んッ・むちゅッ……クサイチンチン興奮するうッ♪ あっ・ダメッ・もういつちやうッ♪」
「イイぞッ！ 一緒にイッてケツ穴にたっぷりザーメンぶちまけてやるよッ！」

「違うのッ・おしっこッ・おシッコも漏れちゃいそおッ！」
「知るかよッ・小便漏らしながらッ・さっさとイっちまえこの変態ッ！」
「アッ♪ ダメッ♪ おケツ熱っついイッ♪
あッ♪ あッ♪ イクッ♪ イクイクッ！
あああ———ッ♪」



『ジョロジョロツ……
プツシャアアアアア————ツ！！』

「ああッ♪ スゴッ・まだカラダっ・ピクピクしてッ♪
ああッ・おケツの穴もッ・ザーメンいっぱいっ・
熱っついッ♪」

「ほらクローンのザーメンも頭からタプブリかけてもらえよッ！」
「ああッ♪ びゅびゅって……クサくて熱いのッ・イッパイ来たッ♪」
あッ、ヤダまたオシッコ出ちやうッ、あッ・やだッ・お尻に
いっぱい空気入ったからッ・ザーメンと一緒にガス出そッ……
いやあッ・わたし女の子なのにッ・おなら出ちや……！！」

『シャシャッ！ ……ぷすッ・ブブッ・
ぶりゅりゅりゅりゅ————ツ！』

「おいおい！w
尻穴からザーメン噴き出しながら
屁もこきやがって……
とんだド変態女だなッ☆」





後書

☆カクガリ兄

ども、兄デス☆

さて、今回は飲み会でお友達になったゆめみさんと組んだ、イラスト&テキストスタイルの本です。

ゆめみさんの可愛い作画に、
僕の下品なテキストを乗っけることで、
またちょっと面白い遊びができるかなあ、と。

冒頭のテキストは原作小説の形が特殊なので
これと同じくひと段落はTwitterの文字数制限で
基本改行ナシetc~の文体で制作したのですが
さすがにカラミもそのまま……というのは
色々無茶なので中止しましたw
もともとアニメーション版が元ネタだしね☆

ではまた次の機会に～。

☆ゆめみ

ドーモ、読者=サン。ゆめみです。
今回はカクガリ兄=サンのお誘いで描いた忍殺の
退廃的ウキヨエ本になります。

近頃新しい仕事を始めたのですが長い通勤時間に
ウシミツ残業も多く、新刊の頒布を半ば諦めていた
ところに天からの声が…ゴウランガ！
兄サンの持つワザマエで奥ゆかしきアトモスフィアな
本が出来上がりました。

とても楽しく作ることができたので
ミナサンにもお楽しみ頂けると幸いです。

それではミナサン、オタツシャデー！

奥付

誌名 ナンシー・リー

フロムウスイホン

作 ゆめみ

カクガリ兄

発行 ゆめざくら+IT.ジャイロ

発行日 2015/08/16

印刷 きょうゆう出版 様

連絡先 kyokaisen0714@yahoo.co.jp

注 本誌に記載する全ての図版・文章を、許可なく
複製・転載・ネットで公開及びアップロードする事を禁じます